

楽しい運動会の思い出

運動会は楽しい思い出でした。中でもチーム別の名札が自分によく似合っていて、ものすごくいい思い出でした。それからKさんと選手宣誓をさせていただきよい思い出となりました。アリガトウございます。また、来年の運動会出させてください！！ (森本和豊)

◆東京都 ペンネーム高みちよ 家族(60代) 障害年金受給更新用の診断書代が8000円。またハローワークで仕事を紹介してもらおうと、事業所に診断書を出す必要があると聞き(こちらは8000円にはならないと思いますが)、弱い者いじめにガッカリしています。年金の減額は容赦ない。作業所の工賃は雀のナミダ…。少なくとも手帳保持者や障害年金受給者には、もう少し助成するなどの策が欲しいと思いますが、皆さんいかがお考えですか。

私は病気 ◆本人(20代)

私は病気だと思われたいです。薬を飲んで飲まされて、増えて減って、本来の自分を失った精神疾患、病気になって病気にされた病人です。とある日、OTさんに呼び出されました。寝坊で朝の薬を忘れて、おかしかったことに気付きました。OTさんは「そこも貴女の個性」と言いますが、そうでしょうか。病気ではみ出した部分も、薬に狂わされた私も？ こんな私は私じゃない。本来なら健康なら…くやしい。異常で普通にされた、それは個性ではなくて病気だと認めてほしいです。それは私じゃないから、病気だから。病気というのは恥ずかしいことでしょうか？ 病気は病気です。恥でも、ましてや犯罪でもないのに、クローズする日本の精神科に不満でイッパイです。私は病気と言われたほうが安心・理解を感じます。

困みは、※月刊みんなねっと(2011/12号)から転載。 ※公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会の機関紙 ホームページ http://www.seishinhoken.jp

28名のメンバーに総額213千円の冬季ボーナスを支給できた。一人平均7,619円(20,120円～330円)。各自、6～11月間の作業時間と利用回数に夫々単価を乗じて計算される。前年比25千円増の支給となった。

〜島原手延うどん〜 お買い上げありがとうございました

●57箱(前年43箱) ●純益2.4万円(前年1.7万円)(自家消費1.5万円含む) 多くの皆様のご協力を賜り真にありがとうございました。純益は、利用者の工賃・ボーナスの支給額改善の原資に使わせていただきます。夏には、島原手延べそうめんを販売します。その折にもご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

お願い ~賛助会員になってください~

NPO法人そよかぜねっとは、精神しょうがいのある人たちが安心して、自分らしく、自立して暮らせる地域創りを目指し、就労継続支援B型事業「やすらぎ工房」の運営、啓発・広報、地域交流活動を行っています。

一人でも多くの方のご理解とご支援を願っています。 年会費：個人2千円・団体3千円 (会費は、法人の運営費に充当されます。)

~ご賛同頂ける方は、下記電話までご連絡ください~ 払込用紙(手数料不要)を送らせていただきます。 TEL・FAX 0794-85-9990

今夏 珍客(虫)万来!!

ゴマダラカミキリ 11/07/29 ピチッ!紙2枚に鋭利な切れ跡
ミヤマカミキリ 11/08/01 ゴマダラより切れ味劣る
エダナナフシ 11/08/05
右が頭、足は6本
触覚は2本だが...

西宮家族会の会長から、少しアルバイトをし始めた障害者が障害年金2級から3級に下げられたという話を聞き、申請してもなかなか支給決定に至らないケースも伝えられる。国は財政難を理由に支給申請の診断書審査をより厳しくして、障害者の生活支援を後退させている。私たちの税使途は直接に障害者や家族、支援施設に影響するから、それを監視して、声を上げたい。この号に掲載された情報等から何かを読みとっていただけたら嬉しい。(伊東久雄)

編集後記

~“こころの健康基本法”議員立法で来年通常国会へ提出~

「こころの健康推進議員連盟」発足

去年からの「こころの健康構想会議」(後に同実現会議へ)の“精神医療・保健改革・家族支援”の政策提言、全国百万人署名国民運動を経て、去る12月1日、参議院会館において超党派の国会議員による「こころの健康推進議員連盟」が発足しました。

議員連盟設立の呼びかけ人を代表して尾辻秀久参院副議長、各党代表があいさつに立った。議員連盟は精神疾患対策の基本理念などを盛り込んだ「こころの健康基本法案(仮称)」を年明け早々にまとめあげ、議員立法で来年の通常国会に提出することを確認しています。

議員連盟の役員には会長に石毛鏡子氏(民主)、

副会長に浅尾慶一郎氏(みんな)、阿部知子氏(社民)、桜井満氏(民主)、高橋ちづ子氏(共産)、田村憲久氏(自民)、古屋範子氏(公明)、宮沢洋一氏(自民)、事務局長に梅村聡氏(民主)、事務局次長に山内康一氏(みんな)が選出されました。石毛会長は「基本法の制定にとどまらず当事者・家族が安心できる社会の実現へ力を込めて努力したい」と決意を披歴しました。

「障害者総合福祉法」「こころの健康基本法」が新年早々にも提示されます。平成24年は障害者と家族の運命を決める重大な年になります。

三木市議会へ“こころの健康基本法”制定に向けて請願準備

三木市・精神疾患に関する統計(市障害福祉課調べ)

Table with 4 columns: 年度, 20, 21, 22. Rows include 自立支援医療受給者, 精神障害者手帳所持者, 障害福祉サービス受給者, 三木市内での自殺者(暦年).

※1~9月

統計の示すように、(精神科受診者数より少ない)自立支援医療受給者、手帳所持者、福祉サービス受給者ともに増加しているが、平成22年度までの3年を通じて手帳所持者はその医療受給者数の約1/2、福祉サービス受給者は手帳所持者の約35%以下、医療受給者数の約2割以下です。

精神科受診数と手帳所持者の割合は全国の趨勢と余り変わらず、精神障害者手帳所持に至らない病の程度の患者の存在、社会の偏見を恐れてのその手帳保持への抵抗感や、手帳所持の利点の理解不徹底、あるいはその利点が少ない等の背景があると考えます。

この実態も踏まえて、当法人はほのぼの会(家族会)とともに三木市議会へ「こころの健康基本法」制定を促す意見書を国会及び関係行政庁へ提出する要請をする準備をしている。長年苦しんできた当事者と家族、それを支えてきた支援に希望を与える動きに注目してほしい。(伊東久雄)

22年度 事業報告書、収支計算書等が閲覧できます。

www.hyogo-intercampus.ne.jp/v-hyogo/ →□三木市 →□保健・医療・福祉

1日平均利用者数(人)

1日14.8人が利用(前年比0.1人▲) 実利用者数の男女比率...5.0:1

Table with 4 columns: 年度, 22, 23, 増減. Rows include 4月, 5月, 6月, 7月, 8月, 9月, 10月, 11月, 12月, 1月, 2月, 3月, 合計, 11月まで.

丹波・北播磨地区精神保健福祉研修会

～当事者の自立に向けて私たちにできること～

〇2011年12月8日(木)
〇丹波市 やまなみホール

みな悩みのなか、鐘を鳴らすのはあなた♪

●清々しいコーラスから

NPO法人かたくり通所者・職員、山南音楽協会の皆さんの清々しいコーラスで幕開けた。とくに歌詞「人はみな悩み、孤独のなか あの鐘をならすのはあなた」「野に咲く花のように人をさわやかにして そんな風に僕たちも生きていけたら素晴らしい」は心に沁みとおった。

兵家連会長、来賓代表挨拶、そして香良病院理事長・院長石井敏樹氏による基調講演「精神保健医療福祉の動向」で、現在の福祉制度への苦難の歴史、その現状・将来が総合的に解説された。



●夢を持って・集落の役をする(当事者) もう限界・家族会の救い・絆を作り愛する(家族) 個性に応じて(支援者) ～体験、想い発表《パネルディスカッション》～

当事者のAさん「中学の時発病、32歳の時、看護師として働き、結婚し子供、孫もいる68歳、その間二十数回入院、三回自殺未遂、妻に助けられて現在ピアカウンセラー、できるだけ外に出る。音楽で癒される、夢を持つことが大事」
Bさん「24年シンナー関係の仕事、火傷して物も言えず、息苦しい、身体障害者年金受給、病で服薬続けながらコメを作り、集落で役をしている。」
家族のCさん「当事者の子どもはマラソン完走、畑仕事

で頑張る、夫と三人で温泉に行くが、歳をとり”もう限界や”という夫とよくトラブル」
Dさん「家族会のおかげで障害者手帳・年金受給・情報獲得で助けられ、問題を会長が解決した、子供の仲間であった当事者の自死に悔いが残る」
Eさん「父と顔あげて散歩する当事者のことを聞くが、息子は昼夜逆転、引きこもり、合併症でヒヤヒヤ、しかし元気で長生きして、彼のために絆を広げ、愛することはできること、希望は持ち続ける」など。

●精神科医は家族の想いにもっと寄り添ってほしい・家族の要望(講師への質問の時) ●表現する難しさ、大切さ

当事者の話はすごいし家族の発信も大事、語り合える時間設定やいろいろな工夫を!

『人はみな悩み、孤独の中、鐘を鳴らす(=輝かせる)のはあなた』ですね。

<文責:実行委員 ほのぼの会 伊東久雄>



だいじょうぶ。転んだって、

農と大地にふれて引きこもりから再生へ

～映画「アンダンテ」(2010年作)を視て～

で寝ていた。「愛犬は偉大だった」といまでも言う。

農作業で自立したいと体験発表する障害者、農家から日に焼けた顔でいつもニコニコして作業所へ通って来た通所者を思い出す。過日この映画の母と娘を地で行くような話を聞いた。娘にピアノ練習を強いすぎて中学から精神疾患で苦しませてしまったと母は今も悔やむ。

映画の最後は立ち直った千華が村人の前、黄金色の稲の真ん中でピアノを弾く。現代人の忘れがちなことを想起させる「稲の旋律」は市民映画会で感動を呼んだ。厳しい農業の現実ではあるが、「こころの病」からの快復のヒントを得た。(伊東)



引きこもりは全国で稀に外出する程度も含め300万人とその親の会で推定されている。精神疾患と関連がある。映画『アンダンテ』は一人の少女千華の引きこもりから再生する物語だが、その家庭は彼女の病に全く理解のない父親と娘にオロオロするだけの母という典型に描かれている。ペットボトルに入れた彼女のSOSの手紙を水田で拾った一農村青年との交流から両親に隠れるように農作業の手伝いをしながら次第に明るい表情に主人公は変貌していく。

さわやかな農村風景でヒヨコと戯れるシーンに私はぐっときた。都会では見られなくなった、かわいいその姿。...

主催:兵家連 担当:木の根会(丹波・家族会)



遊び心いっぱい

～第7回北播磨作業所合同運動会に参加～
吉川会場へ

絶好の日和の11月4日吉川町文化体育館へ向けてやすらぎ工房からバスで出発、会場受付周辺は大賑わいで、早くもこれから始まる行事への参加者の盛り上がりを感じました。まもなく会場内はプラカードを先頭に6選手団、役員、来賓の着席がそろい11時より開会式が始まりました。開会挨拶、三木市代表を始めとする来賓挨拶、紹介に続きそよかぜねっと選手団の宣誓、ラジオ体操等に続いていよいよ競技が開始されました。

楽しい競技

①パン釣り競争 釣る技術もさることながら、食べたいどのパンを選んで釣るかがこれまた楽しい競技で、選手の他だれでも参加できるという太っ腹なおいしいレースでした。②バラエティー競争 椅子の上の膨らんだ風船を体重で割るという難しい技のあと、網を潜りぬけるなどの関所を超えるレース ③着せ替えタイム ヨーイドンで一斉に箱めがけて走り、中に入っている衣装を身につけた後ゴールへ走りこむ。表彰状が出るこのレースは、立派な王冠を頭にのせた貫禄十分な扮装が目を見てグラブプリを受賞。他にもナース、大根とかの愛らしい衣装も良かったですね。

この後お待ちかねの弁当タイム・・・午後には④借り物ならぬ借り人競争 紙に書かれたお題に該当する人物を探し、一緒にゴールインするレースでこれがまた難しく、もしも紙に「会場が一番良い男」とあった時には、「ワシの出番や」と待ち構えていた人もあったので・・・このあと⑤玉入れ ⑥リレーと続き、3時間を超える合同運動会は無事終了となりました。

参加者全員、老若男女を問わず遊び心いっぱいに楽しく面白く晩秋のひと時を過ごすことが出来て本当によかったと思いました。

みんなの力結集の成果

すべての行事に共通するのですが、会場探しから始まる準備段階、当日の進行管理、突発事項への対応方法等に至る一連の大任に当たられた方々のご苦勞は並大抵でなく、深く敬意を表します。選手を始め職員・ボランティアなど、みんなのすべての行動力結集の成果が今回の合同運動会成功の源泉であるものと確信いたします。 理事 今泉義之助



～～ご参加・ご協力ありがとうございました。～～

合同運動会は、北播磨の6作業所が持ち回りで担当して催行される。合同はNPO法人そよかぜねっとが担当いたします。

「私の願い」

発病してから20数年、振りかえれば最初の10年間は絶望の海の底に沈みこんでいました。その後、多くの仲間や協力者を得、セルフグループ活動を始めました。

セルフグループとは、同じような困難を抱えた者同士がお互い支えあいながら、共通の課題に取り組み、仲間の自己選択、自己決定を支える活動のことです。そこでは、3つの分かち合いが行われています。一つ目は苦しかったことや辛かったことなど、気持ちの分かち合い、二つ目は私たちを取り巻く医療や福祉制度についてなど情報の分かち合い、3つ目は病や障害があっても人には様々な可能性があり、決して絶望することは無いという考え方の分かち合いです。

人は支援を受けるだけでなく、誰かを支援することで自信や自分への信頼感を取り戻し、自己尊厳感も高まるのだと思います。私たちの立ち上げた「ドリームファクトリー」の活動も13年目になり、会員総数は現在116名です。

ピアとは仲間とか対等という意味です。欧米では以前からピアサポートの重要性が認められ、精神障害を持つ当事者が仲間の支援を仕事として行う。これは障害当事者の雇用の拡大にもつながるのだと思います。しかしその一方で仕事をする事だけが重要視され、そうではない障害者が軽んじられることがあってはならないとも強く思います。

私の大変尊敬する精神科医は常々「いろいろな人がいて世の中」ということを仰っています。

どんな障害があっても、働いていても働いてなくても、それぞれの人がその人らしく、ささやかでもいい、夢や希望を持って生きていくことが出来る、そんな世の中が来るのが私の願いであり、夢でもあります。

ドリームファクトリー代表 渡口泰子

やすらぎ工房の職員となって

早いものでやすらぎ工房でお世話になって、5ヶ月目を迎えました。

仕事の方はまだまだ覚えきれませんが、雰囲気にはようやく慣れて毎日楽しく勤務させていただいています。

スタッフは経歴も性格も様々ですが、なぜか調和がとれていて、業務の随所に個性と魅力が発揮されており、頼もしい限りです。メンバーさんはこれまた個性的な方が通所されています。心の優しい頑張り屋さんが多く、支援者でありながら私自身が支えられていると、日々実感しています。各関係機関やボランティア・地域の皆さまにも大変お世話になっております。やすらぎ工房を通じて、たくさんのお会いが広がっていくことがとても楽しみです。

最後に私のモットーを・・・

『いつも思考は冷静に ハートは温かく 仕事への思いは熱く』

今後ともご指導よろしくお願ひ申し上げます。 明助 遊雲